

1. 平野郷の略史

上古この地に住んだ杵俣長日子王（日本武尊の御孫）に因んで「くまたの荘」と称したといわれる。渡来人が多く住みつき、式内赤留比神社を祭祀した。

平安時代に坂上田村麿の子広野麿が朝廷よりこの地を賜り、社を建て氏神として牛頭天王を祭るとともに、菩提所修楽寺を建て神仏の冥護を祈った。のちに「広野の荘」と呼ばれるようになる。広野麿の女春子は桓武天皇妃となる。長宝寺を建立する。

坂上家の庶流に則光、末吉、成安、徳成、三上、土橋、辻葩があり、七名家と称した。「広野の荘」を、野堂、流、市、背戸口、西脇、泥堂、馬場の七字に分け、各家がその一を治めた。

院政時代 1127年、鳥羽上皇が融通念仏宗の祖良忍上人に命じて大念仏寺を創建せしめる。源平抗争の頃、熊野信仰が盛んになり、牛頭天王を祀る氏神社は、この頃に熊野権現を併せ祀ることになる。

戦国時代には、三好長慶、松永久秀、織田信長などの所領となり、信長支配の 1578 年に、末吉勘兵衛利方が代官に命じられた。勘兵衛は廻船業を営み、後に豊臣秀吉に仕えたとき、平野郷は大政所高台院領となり、一族の出納を与り大阪城の近くに居を構えて出仕した。

大坂の陣では、勘兵衛の子孫左衛門吉康は、徳川方に加勢したので、大坂方に悉く焼き払われたが、戦後、吉康は功により平野河内の代官となり、叔父の平野正次は喜連村の代官に任ぜられた。

関が原合戦後、徳川家康は勘兵衛に旧領地の所有権を認める朱印状を与えた。利方は家康に説いて 1601 年に銀座を起し、弟の平野正次と共にその頭領となった。銀座は当初、伏見に設けられ古くから銀貨を鑄造していた大黒作兵衛常是が座人となった。後に江戸へ移る。*

吉康とその子長方は、渡海朱印状を得て船を安南、シャム等へ航し、江戸、長崎を拠点として海外貿易に従事する。また、長方は寛永の頃（1636）に、柏原船を創設した。平野川筋を利用して、大坂と柏原の間の輸送に一時は大繁盛した。平野正次は安井道頓と堀川の開削をした。

徳川時代は元禄六年（1694）をさかいに、前期は天領、後期は藩領となる。天領期は代官に吉康の子孫が任じられたが、貞享年代（1684～1687）以降は他姓が任じられた。藩領期は中ごろから下総国古河藩に属した。地頭が統治し陣屋を設けその下に惣会所、町会所の自治機関があり、惣会所は陣屋に直属し町会所を督励した。惣年寄がここに詰め、七名家から出ることを原則とした。

元禄十五年（1702）平野荘を平野郷町と町名変更を行う。享和二年（1717）に土橋友直が陽明学派の塾「含翠堂」を開く。明治5年の廃塾まで150年余り続いた。

明治の改革で最初は大阪府住吉郡に属したが、のち東成郡平野郷町に変わった。大正14年4月（1925）大阪市の市域拡大政策により大阪市の住吉区平野となる。

出典：「平野郷 大阪市編入五十周年誌 平野振興会文化部編 昭和54年」からの抜粋

*銀座の起り異説『慶長三年（1598）に徳川家康が堺の町人湯浅作兵衛の協力を得て、伏見に銀貨の鑄造所を設けたことに始まる。正式に（銀座）と命名されたのは慶長6年で、（後略）。伏見銀座は慶長十三年（1608）に京都へ移されているが、これとほぼ同じ時期に大阪にも銀座が設けられた。（大阪銀座は銀貨は造らず、生野・石見などの産銀を受け取り京都へ回送していたといわれる。）』出所：「大阪市の文化財」1997年版